

田原本町立東小学校 学校だより

—明るく、楽しく、元気な学校—



【ひがしっ子】
・ひとにやさしい子
・がんばって学ぶ子
・しなやかにたくましい子

本年度もありがとうございました！

—明日を担ってくれる子どもたちが育っています—



三寒四温の言葉のとおり一雨ごとに暖くなり、春の訪れを感じる毎日が続いています。

春を待つこの時期は、子どもたちがそれぞれに自分の一年の成長ぶりをしっかり意識し、それを次年度につないでいくという大事な時期に当たります。特に、6年生にとっては小学校生活最後のしめくりとなります。先週水曜日には、卒業式予行を行い、式にふさわしい晴れやかな呼びかけの声と美しい歌声を聞かせてくれました。それは、希望と期待で胸を弾ませている心の表れのように感じました。小学校で身に付けた様々な力を生かし、中学校という新たな世界に羽ばたいてほしいと思います。これまで支えていただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

1年生から5年生の子どもたちは、このひと月、一年間のまとめの取組を進めてきました。5年生には、まとめの学習や学校行事などに取り組む中で、徐々に最高学年としての自覚や責任感が育ってきているように思われます。

子どもたちの生きる力を育むためには、自らの役割と責任に気付く体験により、自分には現実を変える力があることに気付くこと。そして、自らの言動には責任が伴うことを実感することが大切です。励まされて行動することもよいですが、自らの学びを活かすことで果たすべき役割に気付き、自ら判断して実行に移す力を付けてほしいです。春休みは、一人ひとりが自分の頑張りを認め、一年間を振り返り、新たなスタートに向け自らの役割に気付けるよう、さまざまな体験をさせてあげてください。一年間、誠にありがとうございました。

統合予定校との交流について

この三学期より、まずは北小学校との交流活動を始めています。最初に小さな学校同士が交流することで、子どもたちは比較的近い規模の集団の中で、新しい友達を作り、交流に慣れることができます。その後、規模の大きな学校との交流に進むことで、子どもたちの心理的な負担を軽減し、よりスムーズな交流を促すことができると考えています。来年度は、北小学校と1～4年生遠足(関西万博)、5年生野外活動(琵琶湖)、6年生古代体験(鍵・唐古)を中心に、年に複数回、学校全体で仲良くなっていくイメージで交流を進めていきたいと考えています。



来年度の取組について

学校だより2月号でお伝えしました、来年度から取り組む「東小の特色あるカリキュラム」について、もう少し詳しくお伝えします。

近年、東小校区では児童数が減少しており、現状2年生(5名)以外は各学年10名程度の児童数ですが、来年度一年生は2名となり、統合までの間に予想される児童・教員数減についてご心配の声も聞こえてくる所です。学校としては、これまで縦割り活動を中心とした取組を充実させることで、少人数化における課題解決を図ってきました。しかし、この先の児童数減も鑑み、給食や休み時間も含めて学級で過ごす大半の時間を、数人の児童と担任で過ごすことから考えられる様々な懸念の声をお伺いする機会が増えてまいりました。

近年、文部科学省が紹介したり推進したりしている小学校の教科担任制やチーム担任制が話題になっています。中学校のように教科により担当教員が入れ替わったり、複数の教員で一つのクラスを担当したりして、多くの目で子どもたちを見ていくというやり方で、学校によって様々な取組が展開されています。私は、統合に向けての学校教育PT(プロジェクトチーム)で、統合予定校の先生方や教育委員会の方々や統合校での学びについて勉強中ですが、そこでも担任制の在り方は話題に上がる所です。教科担任やチーム担任実施校の児童アンケート等を見ますと、「担任でない先生に教えてもらって楽しかった」「いつもじゃない先生に褒められて嬉しかった」「担任以外の先生とも仲良くなれた」「担任の先生が増えたみたいで嬉しい」「たくさん先生のことが知れるし、自分のことをたくさん先生に分かってもらえることがとても嬉しい」「相談できる先生が増える」など肯定的な意見が多く見られます。一方、時間割調整が難しい、単学級はどうシステムを組めば良いのかななどの課題もあるようです。

そこで来年度は、低学年13(2+11)人・中学年16(5+11)人・高学年24(10+14)人の3つの学年層をそれぞれチームとし、まずは学年層で活動する時間をこれまでより多くもつことで、今後、少人数化が進むことに伴い懸念される点の課題解決の一助となるよう取組を始めます。

【いただいているご懸念の声の例とチーム制実施により期待される効果】

- 寂しく感じる。→朝の会、給食、帰りの会については、基本的に学年層で共に過ごします。
- 関係が固定されがちになる。→友人関係、担任と児童の関係、子ども同士の休み時間の遊び相手・遊びの内容等、さまざまな場面で幅の広がりが期待できます。
- 協働の学びができていく。→教科、単元によりますが、一緒に学ぶ機会が増え、友だちと話し合ったり、意見を練り上げたり、発表を行ったりという協働の学びが実現します。

教員は、1～6年生まで一人ずつの担当を立てますが、気持ちとしては、例えば、1・2年生担当教員が二人で、低学年11人の児童の学習や生活を相談しながら指導するのだという心構えで教育に臨みます。チーム制に伴い、「一人ではなく複数の目で見ることにより、児童の良さを多角的・多面的に見取ることが可能」「複数で常に情報共有、相談しながら対応するため、日常的な指導の充実と共に、トラブルが起きた際の適切な即時対応が可能」などの効果も期待できます。

実施にあたっては、今後、児童の思い、ご家庭からのご感想、教員の振り返り等を反映させながら、工夫した柔軟な体制づくりを行っていきたく思っておりますので、何卒、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。活動の様子については、通信等でお知らせしていきます。

